

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：37111

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K16617

研究課題名（和文）中国出土文献による聖賢故事と経書の研究

研究課題名（英文）Study on Chinese Classical Literature and Sages Stories: relying on Excavated texts

研究代表者

中村 未来 (NAKAMURA, Miki)

福岡大学・人文学部・講師

研究者番号：50709532

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、新出土文献（清華簡や北大漢簡）にみえる経書および聖賢故事に関する文献を伝世文献の内容と比較検討し、思想史上に位置づけることを目指した。その結果、伝世文献のみを用いた従来の先行研究では諸説紛々としていた文字やテキスト解釈に一定の解決が得られた。また、聖賢故事の変容や諸子間におけるその受容状況についても自説を述べるに至った。さらに、いくつかの儒墨関連文献にも目を向けて基礎的な検討を行い、故事形成や慣用表現の使用に関する私見を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東アジアに多大な影響を及ぼしてきた中国思想の根幹は、諸子百家の活動した春秋戦国時代に形成された。しかし史料制約のため、従来の研究では不明な点が多く残されていた。本研究では、その空白を埋めるべく、一次史料である出土文献を用いて経書および聖賢故事に関する思想の変遷過程を検討した。自身の研究において得られた最新の成果は、一般書や国内外の学術誌に論文を掲載するなどして広く開示した。これらは報告者の専門とする中国古代思想史学のみならず、一般の読者や国内外の近隣領域の学者にも資する基礎研究となるであろう。

研究成果の概要（英文）： In this study, I compared the Confucian writings that have appeared in newly discovered literature (the Tsinghua Bamboo Slips and the Beijing University of Western Han Dynasty bamboo slips) and the literature regarding the saints and sages with the literature that has been passed down over generations, with the purpose of discovering their place within the history of ideas. As a result, a certain degree of resolution was obtained for the interpretation of characters and texts that were subject to great debate in previous studies, which were made using only the aforementioned traditional literature. In addition, I explain my own theory on the transformation of the scriptures of the saints and sages, and their reception among Hundred Schools of Thought. Further, I conducted a basic review of some Confucian and Mozi literature, and provided my personal opinions on the formation of related sages stories and the use of idiomatic expressions.

研究分野：中国哲学

キーワード：中国古代思想 出土文献 清華簡 経書 聖賢故事 『逸周書』 子産 北大簡

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、中国では古代思想史を塗り替えるべき多彩な内容を有した戦国時代～漢代の一次史料(帛書や簡牘)が次々と出土している。2000年以上の時を経て発見された新出土文献には、すでに散逸したと考えられる内容や、未知の思想を含むものが多く含まれており、中国古代思想の空白を埋め、思想の形成や影響関係を考究する上で、必要不可欠な史料であると考えられる。

報告者はこれまでに上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡)や清華大学蔵戦国竹簡(清華簡)を研究対象とし、戦国期の南方・楚地における経書や聖賢故事受容の状況を検討してきた。しかし、上博楚簡や清華簡をはじめ、その後も陸続と出土史料が発見され、整理・公開作業が進められている。そのため、これまでの研究をさらに発展させる形でより多くの文献に目を向け、巨視的な視点で中国古代思想史を捉え直す必要が生じてきた。

2. 研究の目的

中国戦国時代(紀元前3～4世紀)の竹簡には、多彩な古代聖賢の散逸故事が見られ、また五経の中でも比較的成立が早いとされる『書経(尚書)』『詩経』と深く関連する文献が散見する。さらに、秦の焚書坑儒を経た漢代の簡牘にも、聖賢の故事や経書関連文献が僅かながら含まれている。本研究では、これら新出土文献を整理し、類似する伝世文献との比較を通して総合的に検討する。最終的には、当時流布していた聖賢故事や経書がどのように形成、変容し伝播していたかを明らかにすることを目指す。

3. 研究の方法

まず、新たに公開が予定されている清華簡や北京大学蔵西漢竹書(北大漢簡)・北京大学蔵秦簡牘(北大秦簡)・安徽大学蔵戦国竹簡(安大簡)等に含まれる聖賢故事・経書関連の各文献について、正確な訳注(原文の確定、訓読、語注、日本語訳など)を作成する。次に、これらに関連する伝世文献と比較検討し、中国古代思想史上に位置づける。その際、不鮮明な文字や気になる竹簡の形制がある場合には、中国の所蔵機関へ実見調査に赴き、現地の研究者と情報交換や会合を行う機会を設ける。また、得られた研究成果は、随時国内外の研究会や学会・シンポジウム等で発表し、情報公開すると同時に、質疑応答を通して受けた批判や提言をもとに再考を加え、より一層研究の精度を高めるように努める。

4. 研究成果

(1) 主要な研究成果

本研究では、新出土文献、特に清華簡に含まれる『芮良夫毖』『命訓』『子産』を主たる研究対象とし、釈文の作成および『書経』『詩経』などの経書や諸子の書との比較を行った。各文献の成果概要は以下の通りである。

『芮良夫毖』については、『詩経』ヒン風・伐柯、および『国語』周語下に引用されている詩と同一の詩が見えるが、それらがすでに伝世文献とは異なる意味や場面設定を与えられ、原義から転用された政治批判を伴う語句(定型表現)として使用されていた可能性が高いことを指摘した。

また『命訓』は、伝世文献である『逸周書』命訓篇とおおよそ合致する内容の文献である。報告者は清華簡『命訓』と『逸周書』命訓篇とを比較し、『逸周書』において「醜」字と記されている箇所が、清華簡『命訓』では「恥」字になっていることの重要性を述べた。先行研究において、「醜」字は「悪」や「類(善悪)」「恥」など様々な解釈がなされてきたが、清華簡『命訓』の発見により、戦國中晩期には当該箇所が「恥」字として解釈されていたことが明らかとなったのである。『逸周書』では、恥を習慣化することにより、人々を規制できると説かれており、恥を民衆統治の要として重要視する思考があった。これは『管子』の根幹をなす思想(経言)にも類似しており、両者に影響関係があったであろうことを指摘した。

鄭の宰相であった子産の事績の大部分は、『左伝』後半部に偏って伝世している。『左伝』には、子産が「礼」を重んずる人物であり、民に慕われる存在である一方、丘賦(税法)を断行し、刑書を鑄て厳格に人々を統制しようとする等、強固に政策を推し進めた人物として描かれている。しかし、儒家系文献である『孟子』や『荀子』では、子産が「恵人」であるが「政を為すを知らぬ人物として描かれている。津田左右吉や小野沢精一は、これらの儒家的な(『史記』や『荀子』等の)評価を受けて、『左伝』の記述がなされたとしているが、孟子の活動時期と同時期(BC300頃)に書写されたと考えられる清華簡『子産』を検討することにより、それ以前にも「恵人」を含む多面的な子産評価が存在していたことが明らかとなった。

以上の個別的検討を通して、戦国期における経書および聖賢故事は、次のような性質を有すると結論付けた。

戦國中晩期には、経書はすでに広く流布しており、おおよそ伝世文献と近似した内容で伝播していたものがある一方で、著者が自身の思考を述べるために、その一部を断章主義的に取り入れて編纂した未知の文献も数多く存在していた。

芮良夫や子産などの聖賢故事については、もともと多彩な事蹟や評価を有する各聖賢の記述があったものの、後世まで残り影響力を増した書籍(『孟子』や『史記』など)がそこから一部のイメージを選び取って記述したために、次第にその方面へと人物像が集約、定着していったと考えられる。

これらは一次史料である出土文献を読み解き、従来の伝世文献研究とすり合わせることで、初めて明らかとなった成果である。なお、成果の一部は『戦国秦漢簡牘の思想史的研究』（2015年、大阪大学出版会）にまとめ、刊行した。

（2）国際的な学術活動の推進

本研究を進めるにあたり、中国の出土史料所蔵機関への学術調査や国際学会における口頭発表を積極的に行った。

学術調査

2015年9月6日には、北京大学博物館にて北大漢簡・秦簡牘を実見し、朱鳳瀚・李零・陳侃理氏らと会談した。翌7日には、清華大学にて清華簡を実見し、清華簡整理者の先生方と討論会を行った。また2018年3月26日には、安徽大学を訪問して安徽大学蔵戦国竹簡を実見調査し、徐在国教授と会談した。これらの調査では多くの有意義な情報を得ることができ、さらに海外の研究者とも研究を進める上でのネットワークを築くことができたと考える。

国際学会への参加・海外学術誌への投稿

報告者は、2015年5月9日に開催された「東アジア文化交渉学会・第7回年次大会」に出席し、「清華簡『芮良夫毖』の基礎的考察」と題する研究発表を行った。また、2016年12月11日には「儒学 蜀学と文献学」国際シンポジウムにおいて、「戦国期における子産像 儒家系文献を中心に」と題する研究発表を行った。さらに、台湾の学術誌に「作為統治手段之「恥」

以《逸周書》三訓為中心」（『東亞觀念史集刊』第11期、2016年）と題する論文を投稿し掲載されている。

（3）本研究の位置づけと今後の展望

国内外における位置づけ

本研究では、近年出土し、まさに整理作業が進められている段階の新たな文献を読解し、従来の研究と詳細に比較することにより、いくつかの未詳であった字句や思想の影響関係を明らかにすることができた。また、出土文献を含めた『書経（尚書）』関連の情報を再整理し、その成果を一般向け書籍に掲載したり（『教養としての中国古典』2018年、ミネルヴァ書房、第2章「尚書」・第9章「韓非子」を担当）日本において発表された直近の簡帛研究のとりまとめを行い、それらを海外の学術誌に発表するなど（『簡帛』第14号「2015年日本学界中国出土簡帛研究概述」2017年、『簡帛』第17号「2016-2017年日本学界中国出土簡帛研究概述」2018年）、自身の研究において得られた最新の情報を広く開示した。これらは報告者の専門とする中国古代思想史学のみならず、一般の読者や国内外の近隣領域の学者にも資する基礎研究となるであろう。

今後の展望

研究期間中、清華簡や安大簡などの図版および釈文がなかなか公開・刊行されず、経書関連文献の検討が思うように進まなかったという想定外の事態に見舞われた。また自身の出産・育児も重なり、研究活動を縮小せざるを得なかった期間もある。

ただし、このような状況の中で、すでに公開・刊行されている北大簡を読み解くことにより、死生観や葬祭儀礼、心論・命論など、中国古代思想を考える上で欠かせない大きなテーマについても目を向け、検討する機会を得た。中でも清華簡『心是謂中』には、「命」を「天命」と「身命」とに分け、偶発的な運命とは別に「心」こそが人の死生を左右するのだという人為的努力を強調する内容が見えた。これは荀子の「天人の分」にも接近する重要な思想であると考えられる。今後は、これらの研究を足がかりに、運命論や心身論についても検討したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 草野友子、中村未来、海老根量介	4. 巻 17
2. 論文標題 2016-2017年日本學界中國出土簡帛研究概述	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 簡帛	6. 最初と最後の頁 307-323
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村未来	4. 巻 21
2. 論文標題 偽書は無価値か--中国古典における「真」「偽」問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 七隈史学	6. 最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村未来	4. 巻 第63号
2. 論文標題 戦国期における子産像 儒家系文献を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国研究集刊	6. 最初と最後の頁 88-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/70147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中村未来	4. 巻 第130号
2. 論文標題 （書評）谷中信一著『『老子』経典化過程の研究』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東方宗教	6. 最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 草野友子・中村未来・海老根量介（共著）	4. 巻 第14号
2. 論文標題 2015年日本學界中國出土簡帛研究概述	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 簡帛	6. 最初と最後の頁 241-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村未来	4. 巻 第62号
2. 論文標題 清華簡『命訓』釈読	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中国研究集刊	6. 最初と最後の頁 107-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/61972	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村未来	4. 巻 第11期
2. 論文標題 作為統治手段之「恥」 以《逸周書》三訓為中心	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東亞觀念史集刊	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村未来	4. 巻 19
2. 論文標題 清華簡『周公之琴舞』考	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 中國出土資料研究	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中国出土文献研究会（中村未来）	4. 巻 61
2. 論文標題 清華簡（五）所収文献解題（『命訓』の執筆を担当）	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 中国研究集刊	6. 最初と最後の頁 70-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/58672	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村未来	4. 巻 第12輯
2. 論文標題 戦国時期的子産形象 以儒家文献為中心	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 儒蔵論壇	6. 最初と最後の頁 42-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 北大漢簡『儒家説叢』について
3. 学会等名 中国出土文献研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 統治手段としての「恥」 清華簡『命訓』と『逸周書』三訓とを中心に
3. 学会等名 第59回東洋史学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 做為統治手段之「恥」 以《逸周書》三訓為中心
3. 学会等名 「哲學與世界」國際研究生研討會（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 中国古代の「恥」概念
3. 学会等名 中国古代觀念史研究ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 戦国期における子産像 儒家系文献を中心に
3. 学会等名 「儒学 蜀学と文献学」国際シンポジウム（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 清華簡『ゼイ（くさかんむり+内）良夫恚』の基礎的考察
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会・第7回年次大会（國際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 清華簡『命訓』について
3. 学会等名 中国出土文献研究会（第57回）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 清華簡『命訓』解題
3. 学会等名 中国出土文献研究会（第59回）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中村未来
2. 発表標題 清華簡（八）『心是謂中』釈読
3. 学会等名 中国出土文献研究会（第72回）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 湯浅邦弘編著、中村未来ほか13名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 364
3. 書名 教養としての中国古典	

1. 著者名 湯浅邦弘、福田哲之、竹田健二、草野友子、中村未来、曹方向	4. 発行年 2017年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 416
3. 書名 清華簡研究	

1. 著者名 中村未来（「清華簡《説命》の文獻特質 以天的思想爲中心」を執筆。）	4. 発行年 2015年
2. 出版社 中西書局	5. 総ページ数 45-51（全255）
3. 書名 《簡帛文獻與古代史》 所収（共著：第二屆出土文獻青年學者國際論壇論文集）	

1. 著者名 中村未来	4. 発行年 2015年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 342
3. 書名 戦国秦漢簡牘の思想史的研究	

1. 著者名 湯浅邦弘編著、中村未来ほか18名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 テーマで読み解く中国の文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

福岡大学研究者情報
<http://resweb2.jhk.adm.fukuoka-u.ac.jp/FukuokaUnivHtml/info/7063/R107J.html>
中国出土文献研究会
<http://www.shutudo.org/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----